

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム 厚南		
所在地	宇部市黒石北4丁目5番39号		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム際波から場所・名称が変更になり、まだ知名度が低いので広く地域の方に知って欲しい。 一人一人の出来ることを見守り支援して、夕食づくりや併設施設とのイベント食作りの手伝いを週1回実施している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者のリーダーシップと長い経験を持つ職員間のチームワークで利用者を尊重し、馴染みのある言葉かけで、利用者がその人らしい暮らしが続けられるように支援されています。職員は「働き方の指針と接遇の指針」を基にした学習会を実施し、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしております。利用者は職員と一緒に、朝食と週に1回の夕食の下ごしらえや盛り付け、お茶くみ、、テーブル拭き、配膳、下膳、後片付けをされている他、毎日のリビングや廊下の清掃、新聞取り、花の水やりや洗濯物干し、洗濯物たたみなど、一人ひとりのできることをしておられるなど、職員は利用者が張合いや喜びのある暮らしができるように支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも伝え全職員と共に考え、実践につなげている ご家族にも聞いて、全職員とのものに考えた	「認知症高齢者の気持ちを理解しながら、共に生活を送り、安定的な雰囲気づくりを目指します。地域の人々とふれあいながら共に支え支え合いながら今まで暮らしてきた生活感を大切にする。」という理念を家族と一緒に新たに作成し、事業所内に掲示して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転したばかりだが、地域活動に積極的に参加している 地区の清掃活動に参加	職員は、地域の清掃活動(年2回)や運動会に参加している。利用者は、地域の生き生きサロンや地元の高校生が行う園芸教室(週1回)に参加したり、併設の有料老人ホームやデーターサービスでカラオケや日舞等の行事が開催される時に参加して利用者と交流している。茶道教師(ボランティア)の来訪があり、利用者とお茶会を開いている。日常的に交流しているとまでは言えない。	・地域とのつきあいの検討
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅支援事業所と共に地域に向けて活かせる事を考えている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	移転してきた事もあり、これからの取り組みと考えている	管理者は職員に評価の意義を説明し、職員全員で話し合い、その結果を管理者がまとめている。職員は、評価を通して、利用者が住みやすいこととは何かを考え、具体的な改善に取り組むことを課題と捉えている。全職員が評価の意義を理解し評価の取り組みをしているとまでは言えない。	・全職員による評価の意義の理解と活用

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・ご家族 の意見も取り入れてサービス向上に努めている 多くのご家族に参加していただいている	市職員、地区民生児童委員、交番駐在員、家族、利用者のメンバーで2カ月に1回開催している。利用者の状況や行事報告の他、昼食会に招待したり、避難訓練の見学会、ヒヤリハット・事故報告とその対応等について説明し、参加者と意見交換している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前からの継続で、協力関係が出来ている 生活支援課との関わりあり	市の担当者とは、運営推進会議時に話し合っている他、管理者が直接出向いて事業所の運営について相談したり、電話でも情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に何があたるのかを全職員と話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる 昼間は玄関の施錠はしない	職員は、法人研修「高齢者虐待を防ぎましょう」に参加して学んでいる他、身体拘束防止のチェックリストを活用して、抑制や拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも参加し、全職員で防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については今後研修をしていく予定としている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と利用者・ご家族の不安や疑問点を其の都度対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を反映するように務めている 外に座れるところがあると良いと言われたので、縁台を購入した	苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定め、契約時に本人や家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時、合同交流会等で家族から意見や要望などを聞いている。ケアに関する要望や契約に明記していないことの指摘等があり、その都度検討してケアの改善や契約書に必要事項の挿入をするなど家族の意見を聞いて運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人との連絡を取りながら、務めている 毎週1回、本部での会議に管理者が参加し意見・提案を聞く機会がある	月1回のグループホーム会議の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、個人面談以外にも、夜勤時に話を聞いているなど、意見が言いやすい環境づくりにつとめている。意見があった場合は、週1回開催される法人の管理者会議で提案できるシステムになっている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、各自が向上心を持って働けるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員面談を行い、一人一人のケアの把握をし、研修にも参加してもらっている 法人が開催する研修会に参加している	外部研修は、職員に情報を伝え、勤務経験や希望に応じて受講の機会を提供している 他、定期的な法人研修への参加やその報告会など、職員が学ぶ機会は確保されているが、職員一人ひとりの研修参加希望や事業所内での自主的な研修参加は少ない。	・計画的な研修参加への検討
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時間がなかなか取れず、交流する機会を工夫していきたい		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なかなかご家族の本音を聞くとこが難しいが、関係作りを通して努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事を見つけて職員と共に過ごしている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が職員に介護をゆだねているというところもある		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を送る、電話連絡をして頂くなど支援に努めている 以前暮らしていた所と一緒にいく	親戚の人や友人、知人の来訪がある他、年賀状や電話の取次ぎの支援をしている。ドライブで、買物や馴染みの公園、以前暮していた利用者の自宅に出かけるなどの支援をしている。家族の協力を得ての墓参りや法事への出席、美容院の利用、外食、集会に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えをして気の合う方や利用者同士が関わり合えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討している アンケート実施	入居時に、本人や家族から聞き取りをしたアセスメントや基本情報をアセスメントシートに記録して活用している他、アンケートを実施したり、日常の関わりの中での利用者の行動や会話の内容を時系列の介護記録に記録し、その中から本人の思いや意向を把握している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しずつ聞く努力をしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を見つける努力をしている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見が中々聞けない 3ヶ月ごとモニタリング	職員は、月1回のカンファレンスで利用者のケア内容を検討している。アンケート調査やケース記録の情報を基に、利用者や家族の要望、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しを行い、状況変化に応じて対応している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に最寄りの派出所の警察官に参加していただいた		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している 往診歯科。皮膚科をお願いしている	利用者の以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし受診の支援をしている。協力医療機関からは、月2回の訪問診療がある。希望に応じて皮膚科や歯科の訪問診療も受けることができる。その他の医療機関の受診は家族の協力を得て事業所が受診支援をしている。緊急時にはかかりつけ医や法人の看護師の協力を得ているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問していただき、連携をとっている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて対応する まだ実践がない	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、事業所でできる対応について説明している。重度化した場合には、利用者や家族の意向を聞いて、かかりつけ医と相談し、施設や医療機関への移設も含めた方針を全員で共有し、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時の対応は出来るが、予防の対応には難しいところがある 応急手当を看護師から研修予定とする	発生の都度、ヒヤリハット・事故報告書にその日の出勤者で話し合って記録し、全職員に回覧している。その後、ミーティングやグループホーム会議で再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時の対応についての内部研修を予定していたが実施出来ていない。	・緊急時の応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一人の勤務時でも慌てず対応できるようにしている イメージトレーニングはしている	年1回、消防署の協力を得て併設施設と合同の総合訓練に参加している他、年1回事業所独自で避難訓練や避難経路の確認、通報訓練などを利用者と一緒の実施している。運営推進会議の参加者は避難訓練の見学をしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている 接遇指針がある	職員は、法人の「働き方の指針及び接遇の指針」を基に学習会を実施し、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情をみて把握に努めている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務におわれるのではなく、利用者を中心に支援するように努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある装いを支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を職員とともにしていただいている 毎日の朝のみそ汁の具切りをお願いしている	朝食と週1回の夕食以外は、法人からの配食を利用している。朝食と週1回の夕食は事業所で調理し、職員と利用者が一緒に下ごしらえや盛り付け、お茶くみ、テーブル拭き、配膳、下膳、後かたづけなど会話を楽しみながら行っている。季節行事食の他、おやつづくり(フルーツポンチ、寒天、白玉団子、ぜんざい、フルーツゼリー等)や誕生日の外出など、食べることの楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後支援している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状況に応じた、対応に努めている	職員は排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、時間を見図りながら、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の状況に応じた、対応に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なかなか時間帯を聞く事はない、入る順番を聞く事はある 職員体制で違うがご希望を聞く事もある	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしている。入浴したくない利用者には、時間をずらしたり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況に応じた対応に努めている 計算の苦手な方にはパズル、名前を忘れないように名前を書いていただく等一人一人が出来る事を支援している	はり絵やぬり絵、漢字ドリル、計算ドリル、ことわざ、カラオケ、風船バレー、ジグソーパズル、花の水やり、食事の準備や片付け、新聞取り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除(モップかけ)、テレビを見る、本や雑誌を読む、歌を歌う、日記をつける、お茶会など、したいこと、好きなことを見つけ、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、日々の生活の張り合いとなるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物支援 以前住んでいた所に出かける	周辺の散歩や買物、ドライブ(馴染みの場所、常磐公園)、季節の花見(桜、梅等)、外食(回転寿司、ファミリーレストラン等)、家族の協力を得て美容院の利用、外出、外食、法事への出席、墓参りなど、できるだけ戸外に出られるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を送る、電話連絡をして頂くなど支援に努めている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席替え、カレンダー作り等工夫している お花を飾る	白を基調とした明るく清潔感あふれる共用空間は、台所とダイニングが中央にあり、真新しいテーブルとイス、ソファが配置しており、くつろげる空間となっている。室内の温度や明るさ、音、換気にも配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前のグループホームより居室は広くなったが共用の空間が狭く、工夫をしている所です		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、きれいで明るい なじみの物が置いてあり、以前と変わらず過ごしやすいと思う	テーブルやイス、整理タンス、衣装ケース、装飾小物、化粧品、家族の写真など、利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状況の応じた環境作りに努めている		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム厚南

作成日：平成 28 年 5 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	自主的な研修参加が少ない。	事業所内での研修を毎月行なう。	不安に思う事、やれそうにないと思うことなど小さな疑問を取り上げて研修を行なう。	2年
2	2	地域との付き合いの検討	地域との協力体制の構築	グループホーム・入居者様・職員を知っていたけるよう、どんどん地域に出かけるようにする。	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。